

令和3年度

「女性研究者支援・養成及び育児支援の取組に関する意識調査」 結果【概要】

令和4年3月31日
ダイバーシティ推進室

調査期間： 令和4年2月8日～2月18日 対象者数： 本学の常勤教員 616名
回答者数： 183名（男性 135名/女性47名/その他1名） 有効回答率 29.7%

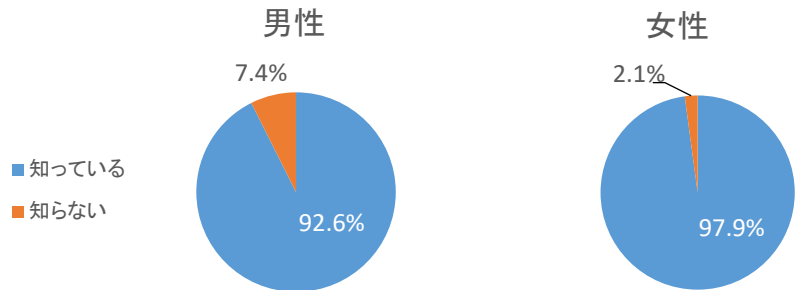
取組の認知度及び推進について

女性研究者支援・養成及び育児支援の取組の認知度は男女ともに高く、取組を推進することについても、男女ともに大きな割合で肯定的な評価がなされている。

【設問】

本学が、ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育て・介護の両立）に係る環境整備や女性研究者の研究力向上と女性リーダー育成、女性研究者の人数を増やすための取組を推進していることを知っていますか。

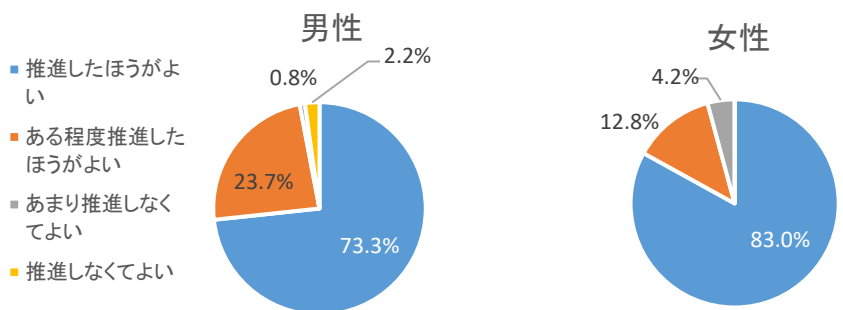
「知っている」と回答した教職員は男性92.6%、女性97.9%となっており、男女とも広く認知されている。



【設問】

本学が、ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育て・介護の両立）に係る環境整備や、女性研究者の研究力向上と女性リーダー育成を推進することについて、どのように考えますか。

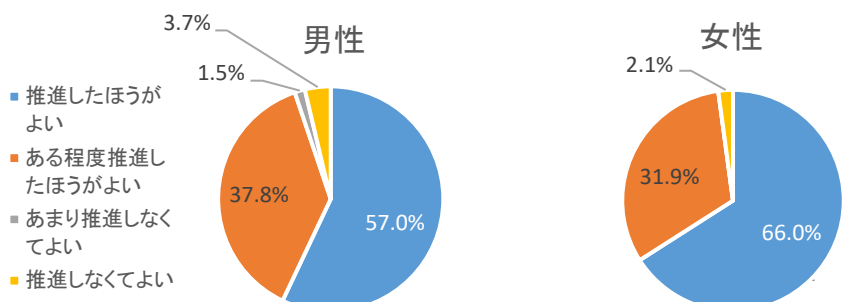
「推進したほうがよい」と「ある程度推進したほうがよい」との回答の合計が、男性97%、女性95.8%となっており、男女ともに肯定的に評価している。



【設問】

本学が、女性研究者の人数を増やすための取組を推進することについて、どのように考えますか。

「推進したほうがよい」と「ある程度推進したほうがよい」との回答の合計が、男性94.8%、女性97.9%となっており、男女ともに肯定的に評価している。



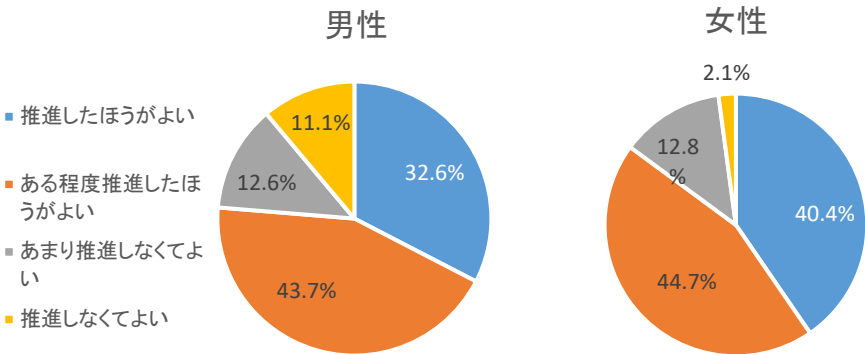
女性研究者の人数を増やす具体的取組及び女性エンパワメント支援制度について

女性限定公募及び女性特定採用、女性エンパワメント支援制度の推進について、女性のほうが肯定的な回答の割合が大きい。

【設問】

本学では、女性研究者の人数を増やす具体的取組として、女性限定公募、女性特定採用を実施しています。この取組を推進することについて、どのように考えますか。

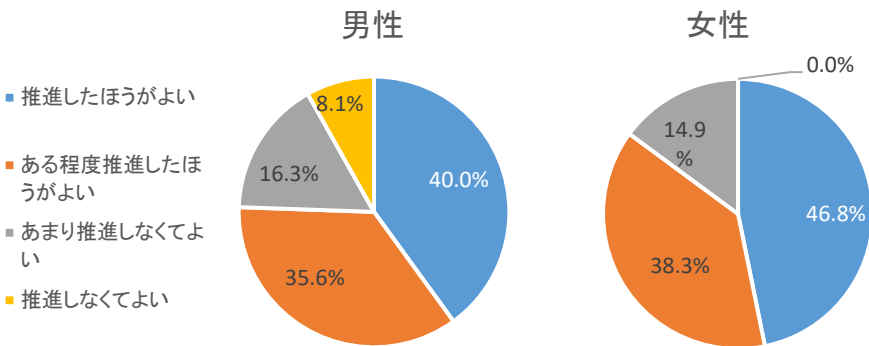
「推進したほうがよい」と「ある程度推進したほうがよい」との回答の合計が、男性76.3%、女性85.1%となっており、男女とも肯定的に評価している。また、「推進したほうがよい」と回答した割合は女性の方が大きい。



【設問】

女性エンパワメント支援制度(より高い研究力、指導力向上を目指す女性研究者を顕彰するために、研究費を助成する)を推進することについて、どのように考えますか。

「推進したほうがよい」と「ある程度推進したほうがよい」との回答の割合が、男性75.6%、女性85.1%となっており、男女ともに肯定的な評価の方が多い。また、「推進したほうがよい」と回答した割合は女性の方が大きい。



アンコンシャス・バイアスについて

「アンコンシャス・バイアス」という言葉を聞いたことがある者の割合は男女とも同程度だが、それが女性研究者の採用に不利に働くことを知っている者の割合は、女性のほうが大きい。

【設問】

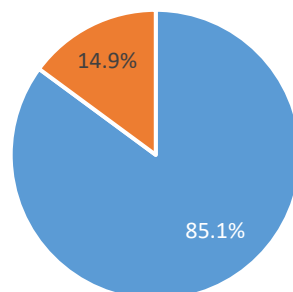
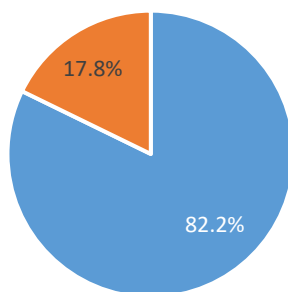
「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」「自分自身が気づいていないものの見方や、捉え方のゆがみ・偏り」という言葉を聞いたことがありますか。

男性

女性

「聞いたことがある」との回答が男性82.2%、女性85.1%となっており、男女ともに「聞いたことがある」との回答の割合が大きい。

- 聞いたことがある
- 聞いたことがない



【設問】

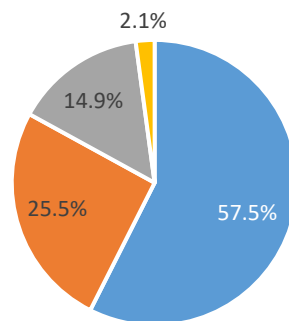
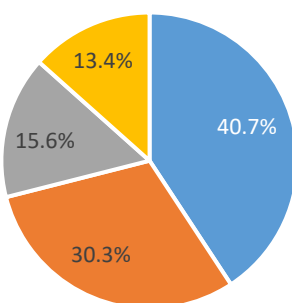
「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」によって女性研究者の採用において不利に働くことを知っていますか。

男性

女性

「知っている」「ある程度知っている」との回答が男性71.0%、女性83.0%となっており、男女ともに「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」が女性研究者の採用において不利に働くことを知っているとの回答の割合が大きい。また、「知っている」と回答した割合は女性の方が大きい。

- 知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- 知らない



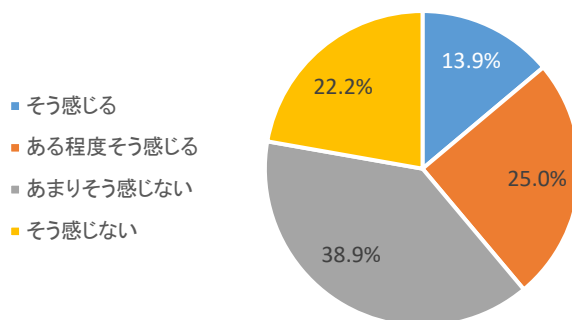
研究環境の改善について

平成28年度以前から在籍している女性教員で、第3期中期目標期間中に研究を続けやすい環境になったと感じている者の割合は、回答者の約4割にとどまった。

【設問】

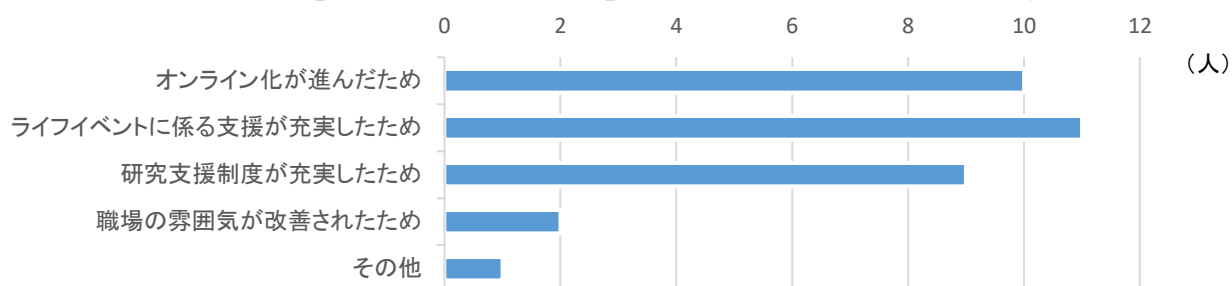
平成28年度以前から在籍している女性教員の方にお伺いします。本学は第3期中期目標期間中（H28年度～R3年度）に研究を続けやすい環境になったと感じますか。

「そう感じる」「ある程度そう感じる」との肯定的な評価の回答は38.9%にとどまった。



【設問】

上記の設問で「そう感じる」「ある程度そう感じる」と回答した理由は何ですか。（複数回答可）



まとめ

○女性研究者支援・養成及び育児支援の取組の認知度は高く、理解も得られた一方で、女性支援に偏っているなど自由記述では否定的な意見も寄せられた。ポジティブ・アクションは女性比率向上に一定の成果があったことから、その必要性が確認できた。今後は女性研究者への支援に限定せず、学内のダイバーシティをさらに推進するための取組へと広げていく必要がある。

○教員選考におけるアンコンシャス・バイアスの影響を最小限に留めるための仕組みづくりや、アンコンシャス・バイアスについての理解を深めることに注力していく必要がある。

アンケート結果は、今後のダイバーシティ推進室の取組に生かしてまいります。改めまして、ご協力頂いた皆さまに、深く感謝申し上げます。